

展示報告 企画展「斎藤由理男－デンマーク体操普及にかけた生涯－」

児 玉 知 行*

1. はじめに

秋田県立博物館の秋田の先覚記念室では年に1回企画展を実施している。増築部分が開設されて以来、今年度が6回目の開催となる。

本稿は本年度の6月から実施された企画展「斎藤由理男－デンマーク体操普及にかけた生涯－」の実施記録としてその経緯をまとめることを目的とする。

2. 展示の趣旨と構成及び会期

【展示趣旨】

秋田の先覚記念室には大きく2つのねらいがある。1つは秋田の近代を創った先覚者の偉業を顕彰すること。2つは先覚者の生き方を次世代を担う青少年に学び取ってもらうことである。2つのねらいに沿って152人の先覚者を展示している。しかしながら常時展示されている58人の先覚者を除けば、名前さえ認知してもらうことが難しい。

そこで一昨年の「工藤祐舜」、昨年の「須磨弥吉郎」と、常設展示されていない先覚者を取り上げ、資料の掘り起こしや紹介に努めてきた。斎藤由理男も常設展示されていない先覚者の1人である。

今回もこの考えを継承し、ワールドゲームズ秋田大会開催を機にスポーツの先覚者の中から全体的にほとんど名前の知られていない斎藤由理男の業績と人となりを紹介することにした。

斎藤由理男は、象潟町出身の体操教師である。秋田師範学校の教師時代に聴講した講演会でデンマーク体操の素晴らしさに触れ、デンマーク体操を基にした理想の体育を究めようと成城学園・玉川学園の教師となり、デンマークに渡った。帰国後は社会体育におけるデンマーク体操の理論の完成と普及に全力を注いだ。

温厚で誠実な人柄に惹かれ、多くの社会体育の実践的指導者が斎藤のもとに集まった。斎藤の開発した「国鉄体操」や「海軍体操」は業務遂行や

実戦に役立つことが実証され、全国各地の職場や学校から指導の依頼を受けた。

これから大きくデンマーク体操を広めようとしていた矢先の昭和20年、3人の弟子と共に国鉄体操講習会指導のため札幌に向けて津軽海峡を航行中、米軍の爆撃に遭い、43歳の若さで帰らぬ人となった。

本展示では、斎藤由理男が短い生涯に残した偉大な業績と、多くの人を惹きつけてやまない愛すべき人柄を紹介しようと試みた。

また、秋田の先覚記念室の機能拡充を狙いに初の試みとして7月14日（斎藤由理男の命日）に講演会を開催した。

【展示構成】

展示は斎藤由理男の生涯を大きく6つのコーナーに分け、関係資料を提示した。

以下にテーマと主な展示資料を示す。

1－「秋田の斎藤由理男－デンマーク体操と出会うまで－」

（賞状・前田尋常高等小学校履歴書・大館男子尋常高等小学校履歴書）

2－「素晴らしきデンマーク体操－デンマーク留学から日本公演まで－」

（オレロップ体操高等学校年報写真・デンマーク体操チーム体操実演会チケット・欧州視察時のパスポート・デンマークから平林廣人に宛てた挨拶状）

3－「デンマーク体操普及に全力を注ぐ－実践的研究の日々－」

（『勤労者鍛錬体操』草案・『海軍体操教範』・OD会機関誌『OD倶楽部』海軍省嘱託辞令・東京府立青年学校教員養成所嘱託辞令）

4－「無念の死－家族の疎開から運命の日まで－」

（青函連絡船空襲写真・旧津軽丸絵葉書

*秋田県立博物館

・OD会葬通知・田中武雄運輸大臣
『弔辞』・斎藤由理男自筆書簡)

5-「斎藤由理男の蒔いた種ー胸像建立とその
後のデンマーク体操ー

(国鉄体操レコード・『体操祭』秋田県
大会ちらし)

6-ビデオ放映

(『ニルス・ブック体操団訪日記録フィルム』)

【展示期間】

平成13年6月26日(火)～8月26日(日)

3. 調査の経緯と資料借用先

【平成12年度】

8月9日 象潟町 資料調査
8月22～23日 東京都武蔵野市・中野区資料調査
2月27日 秋田市 資料調査
3月1日 東京都中野区 資料借用
3月7～8日 函館市 資料調査
3月22日 秋田市 資料調査

本展示における最初の作業は資料の所在確認である。象潟生まれで師範学校卒業後の赴任校も県内ではあるが活躍の中心は東京であり、遺族も東京在住、研究者も東京在住ということで県外での調査活動が主になった。

8月は出身地の象潟町と遺族の住む東京都を訪れ、企画展の趣旨説明を兼ねて関係者に対し挨拶した。

2月と3月は調査と同時に借用可能な資料の収集も始めた。市立函館図書館で斎藤由理男が津軽海峡渡航中に爆撃を受けた様子がわかる写真を複写した。

【平成13年度】

4月5日 象潟町 資料調査
4月11日 秋田市 資料調査
4月18日 森吉町・大館市資料調査
6月7日 東京都武蔵野市 斎藤健氏宅資料借用
7月13日 森吉町 成田為三との関わり調査
9月14日 東京都中野区 岩渕文人氏宅資料返却

県内で教職に就いている頃の足取りを示す資料を提示するために森吉町立前田小学校と大館市立桂城小学校から履歴書、卒業アルバム等を借用した。

また、戦後のデンマーク体操の広がりを示す資

料として、J R東日本秋田支社を通して本社から国鉄体操のレコードを借用することができた。

県外では東京在住の斎藤由理男の研究者である岩渕文人氏から斎藤由理男の著書やデンマーク関係の研究資料資料、体操全般に関する資料を借用した。

【展示資料借用先】

展示資料借用先は、斎藤由理男が理想を追い求めた跡を辿るような形で広がりを見せた。

森吉町立前田小学校	1点
大館市立桂城小学校	1点
市立函館図書館	6点
岩渕文人氏	14点
相馬勝郎氏	2点
象潟町公民館	2点
斎藤八重子(健)氏	14点
田宮利雄氏	1点
J R東日本秋田支社	2点
玉川大学	6点
計	49点

4. 関連事業

【平成13年度】

4月24日 象潟町 象潟町公民館白寿大学公演講師
6月28～29日 秋田市 企画展広報
6月 図録作成(和文図録・英文図録作成)
7月10日 象潟町小滝老人クラブの移動学習会への対応
7月14日 岩渕文人氏の講演会(内容は64～76頁に掲載)

当該年度は展示のための資料収集、調査活動を中心に広報活動、講演会などの広報普及的な活動も絶え間なく続いた。

また、ワールドゲームズ参加者の誘客を念頭においた英文解説資料の作成という初めての試みも一連の作業に加えられた。

5. 来館者からの聞き取り

本展示では、来館者と直接対応する解説員によって、来館者の資料にまつわる思い出を記録するようにした。

以下は、来館者や招待者の話の一部抜粋である。

- ・旧国鉄体操講習生として懐かしさが胸に広がるのを覚えた。(元青函連絡船員)
- ・地元こんなに立派な先生がいたのに無関心で

いたことが悔やまれる。新たな気持ちで偉業を称えていこうと再確認した。(象潟町小滝老人クラブ会員)

- ・旧国鉄OBである父が定年後も継続していた体操がデンマーク体操であることがわかり驚いた。(来館者)

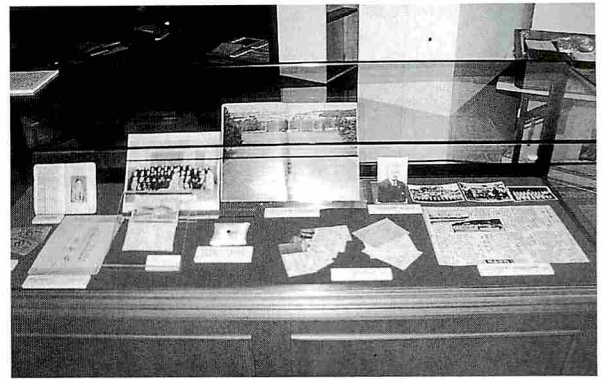
6. 終わりに

本展示の内容では、体操の歴史についてのコーナーを作らなかったのもスウェーデン体操とデンマーク体操の違いや体操全体の中でのデンマーク体操の位置付け、その後の体操に与えた影響等についての説明が充分でなかった。

また、平成13年の夏に開催されたワールドゲームズに参加する選手、観覧する観光客を当て込んだスポーツの先覚者の企画展なので、英文解説資料作成及び配布などの対策を講じたが入館者の増加は期待したほどではなかった。企画と広報活動のあり方に課題が残った。

付帯事業として講演会を今回初めて開催し、先覚にゆかりのある講演講師を招いて先覚者について語ってもらったが、岩渕文人先生のように直接教えを受け、その姿や声を記憶に留めている人が話をするということは、関係者が高齢化していくこともあり極めて難しい状況になっていくことが予想される。秋田の先覚記念室の役割から考えても、今後関係者の証言を採録していく作業は大切にしていかなければならない。時間の経過とともに散逸していく資料の収集とともに心を碎かなければならない問題である。

出身地である象潟町を中心に県民が関心を寄せてくれたことと、常設展にない先覚者にスポットを当てて新資料の掘り起こしができたことは収穫であった。



展示の実際（素晴らしきデンマーク体操）



展示の実際（無念の死）



展示の実際（斎藤由理男ゆかりの人々）

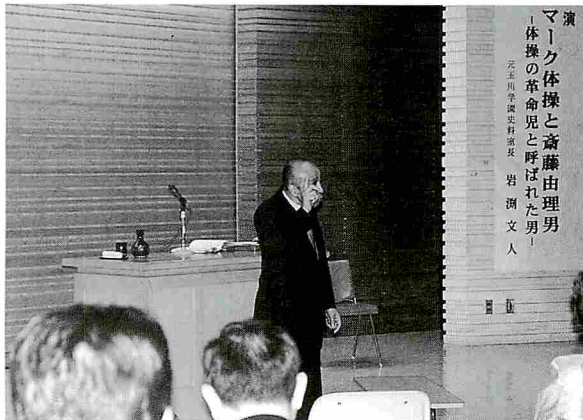


展示の実際（あいさつパネル）

斎藤由理男講演会『デンマーク体操と斎藤由理男』記録

これは平成13年7月14日に当館講堂で行われた講演会の記録である。

講師は元玉川学園史料室長・元中野区江原地域生涯学習館長の岩渕文人氏で、この日は斎藤由理男氏の命日にあたる。



講演する岩渕文人氏

はじめに

みなさん、こんにちは。斎藤先生ごめんなさい。勝手なことを言うかもしれませんが。たまたま私、お話をいただきまして、私の家に特殊な関係から、斎藤先生の諸資料が集められておりました。この資料をこちらで展示されるということで、展示の企画が進められ、みなさんご覧のように素晴らしい形で展示されております。ちょっと先生に縁故がありますので。先生というくらいですから、私にとっても恩師です。ただし教室で教わった恩師ではないんです。

平林廣人のこと

事の始めというのは、随分昔の事でございます。大正時代ですから、私が生まれるよりずっと前のこと。日本は農業国で立っていかうとしていた時に、今までの神武以来の農業でどうやってこれからの国を立てていかうか、そういう時代がやってまいりました。それが大正の半ばです。その時にある田舎の小学校の校長が、若くして校長になったために毎日の生活が物足りなかったんですね。これからの、小学校の教育は教員の人達にお願いして、ひとつ私は子供じゃなくて大どもを教育し

ようと、そういう夢を描いた人がおりました。これが秋田県の人だったら先覚者になっちゃうかもしれませんが、秋田県じゃなかったんです。お隣のお隣ですかね、長野県の人で、松本の旧制中学を卒業する時に、英語の卒業論文を書いたそうです。随分勉強したんでしょう。ある日、宣教師の所に行って雑誌を見ていたところ、デンマークという国があって、ヨーロッパの北の方で、大変農業では盛んな国なんだ、それなら向こうから本を取り寄せて勉強してみよう。こんなことまでやっていたのですが、この校長さん、どうしても大供教育をやりたくてやりたくてしょうがなかったんですね。

その当時、大ぶろしきと称されていた後藤新平という方がいました。内務大臣にもなってますけど、校長さんは後藤新平さんの所に行き長野の駅にきた列車の1等車に持ち金全部を払って、途中のおぼすてまでの乗車券は買えるけれどということで、1等客席にやつともぐりこんで、後藤新平に会いにいきました。「おお、そうか、大供教育ね、それなら君やってくれ。1万円以上のあしがでたらだめだぞ。」という話だったそうです。その校長は夢を叶えるべく、木崎というところへ夏期大学を作りました。そして一般の方々を中心とした夏期講習をやったんですね。日本一の人を集めて講習をやろう。あのへんの鉄道会社の人達も協力してくれて、夏期講習のための施設もできました。

そういう校長さんでしたから、他のことも一生懸命で、学校に購買部を作ったり、今まで学校にげたで通っている子供達にゴム靴をはかせてしまったり、野球を盛んにさせたり、松本で買ってきたパンをみんなでかじりながら山へ行ったり。そういう風なことをやっていたもんですから、村の人達はどうも変わった校長で困ったなど。校長さ

んはある日、百科事典の全巻6冊をセットで買ったんです。このような基礎が全部頭に入っている程の人を作りたいんだと、村の人達もここまでいってほしい。毎日会々と、ハーハー校長さまという状態じゃあまずいんだと、今の日本をこれから立てて行くためには農業国であっても、うんと高い教養をつんだ者にしなければいけないんだ。デンマークのことを聞いてますから、そういう夢に燃えていたんです。ところが村の方々はそうはとりません。校長先生は余計な物を買った、あんなもんじゃ困る。ついには泥棒が入って購買部のものが盗まれる。あの校長はだめだ、クビだ。とうとう追い出されるはめになりました。

その時に後藤新平は東京市に呼んで、「君に東京市で大供教育をやってほしいんだよ。」という話になったんです。

そこで校長さんをやめまして、たまたま後藤新平さんの元で関東大震災に遭ってしまうんですね。そこで懸命になって作りましたのが、町会という組織です。どこの町に行っても今は、自治組織として町会というのがあります。この町会を作ること懸命になってやりました。

あの関東大震災の後の東京で、焼け野原の中を飛び回って懸命になって、町会を作った張本人が平林（廣人）という人なんです。なんでお前そんなに知ってるのと思うかもしれませんが、実は私の祖父なんです。それから少年団ボーイスカウトというのができて、全国のボーイスカウトが集まってボーイスカウト連盟という組織ができて1つになったときに後藤新平が頭になり、平林はその秘書をやっていたんです。

ところが、「君は、前からデンマーク、デンマークというが、イギリスで今度ジャンボリーという会があるそう、君、代表で行ってこい。」と言われました。デンマークというのは考えてみると、イギリスからは船で行くとほんのすぐですね。そこでデンマークへ行行って、後藤新平さんがお金を出してくれますから、懸命になってやったことは35mmの映画をとって回ることだったんです。

デンマークという国

デンマークはどういう国であるか、どうやってここまで国が育ったのか。お百姓さんでも大変な金持ちで、どこの家へ行ってもピアノがある。しかも部屋に入りますと、床が板張り、靴で入るところですから、板張りは当然ですが、その部屋に入ると脇に肋木があるんですね。体操をやってるんですよ。自分の家ですね。

そこでデンマークのアスコフという学校に入って、デンマークの教育ということについて勉強を始めました。むこうの師範もでました。デンマークとはこういう所であると知って日本に帰ってきます。そこまではよかったんですがね、日本に帰ってきたら、そのパトロンであった後藤新平さんが亡くなっちゃうのです。どうにも困っちゃうんですね。次の夢が実現できない。

ところが、デンマークで知ってきたことを懸命になって日本各地で吹聴してまわりました。1つみなさんのご存知のものがありません。それはデンマークの農業協同組合のシステムの実際です。酪農の国デンマークはこうなんですと、撮ってきた映画を使いましてね、日本中を歩いた。

ところがある日、小野源蔵という方、秋田師範でも有名な方ですね。教育評論家、体育評論家ですけれども、その方にお会いしまして、秋田の教会でデンマークの話をするわけです。その話の中に、デンマークにはデンマーク体操というすごいものがあるよ。実演したそうですね。映画も見せたそうです。その会場にたまたまおいでになっておられた小野さんから師範を通じて知られた斎藤由理男さんがおったんです。その斎藤先生、なにしろ今のこの体操は堅苦しくていやだ、なんかいいものあるはずだと、そう考えていたらしいんですね。その斎藤先生の心に火をつけてしまったのです。まあ、平林は悪いことをしたもんだと思って、私は申し訳ないと謝らなければ思ってるんですけども。そのデンマーク体操の夢に燃えましてね、こちらの小学校の先生をお辞めになって東京へ出て行くんです。断腸の思いであったと言われています。斎藤先生は長男ではなかったようですね。したがって自由の身だったのかもしれませんが。

そこでです、デンマークでは一体全体、どうい

う教育をしていたのとかいわれると思います。そこでちょっとの間、斎藤先生のお話からは離れますけど、デンマークの教育とはこういうもんだったという概略だけ話させて下さい。

この頃のデンマークがどういう国だったかという、デンマークのドイツに近い方にホルスタインという地方があります。牛の名前にありますね、あのホルスタインです。それから、もう1つはシュレツビヒというところがある。これも大変に農業では盛んな国で場所ですととてもいいところだったようです。

ドイツへ行くとこの地方は大草原のように畑がずーっと続いています。1850年頃、戦争をやりまして、これを全部外国に持っていかれちゃいました。

ユトランド半島という小さい半島、それに付随する島々、これだけがデンマークに残りました。コペンハーゲンでも、その半島のすみっこにのにあります。あまりいい土地じゃないんですね。そのもうどうにもならない土地の国をどうしたかという、「外で失ったものを内で取り返せ。」これが目標で国中の人達が盛んに動いたようです。工兵将校が木を植えることを教えるんですね。そういうことを懸命になってやった国作りというのは素晴らしい結果を生むわけですね。まず鶏が産んだ卵に全部番号をつけましてね、これは誰それさんの家の何番目の鶏で、何月何日の何時に産んだと、ここまで書いて出荷すればそれは信用がありますね。イギリスでも、ちょっと高くても買います。一方で、バターをパンにぬって食べるわけですね。あのアンデルセン童話の中にも「神様お願いですから、私のパンにもバターをたくさん塗って下さい。」という話が残ってますけど、あの話のようなバターですら牛から絞った乳で作ったのではなくて、大豆から作ったマーガリンバターというのを作って食べて自分の所で作ったバターは外国に輸出してしまうんですね。今「新潟県の米百俵」とか言ってますが、そんな気持ちだったんだろうと思うんです。生産品はできるだけ安く、肥料は自分達で作って畑を育てて、なんとか作り上げようとそういう政策を考えたのでした。

その中で学校も考え方を変えました。むこうの

学校ですと、最初に小学校に入ります。これは義務教育で7歳から14歳までで教科でいいですけどここに書いてきたんですけど、まずデンマークの国語。国語といいますかドイツ語も含まれます。デンマーク語だけじゃないんですね、ラテン語もやってます。次にでてくるのが算術、数学ですね。そして日本では今やっていませんが宗教教育、根本的な宗教教育ですね。何教に入りなさいというのではないんですよ。宗教というものは、こういうものであるから大切にしなければならない。それから自然学、音楽、体操です。

もし出来なければ嫌が応でも落第、留年させられてしまいます。徹底的な教育をしています。今でもやってます。その当時と変わりありません。そして、14歳になりますと卒業。後は18歳、20歳くらいまでの間、学校には行かないんです。中学校も高等学校もありません。それじゃあ、何してるのか。頭を懸命になって磨いたんだから、今度は自分を作りなさい。身体と働く精神を作りなさい。体操にはグループがありましてね、体操クラブを懸命になってやる。国が盛んになってやっていることは音楽教育。これ国民歌というんですね。なにしろこんなに厚い歌集がどこの家にもあります。だいたい1冊の本のなかに1500の歌がはいっています。これが歴史から考え方の哲学的なこと、そして先祖はこうだった、こういうことを徹底的に歌でたたきこんでいくわけですね。こういう国民性をもって体を作って、そのうえで農家へ入って実業を腕につけてしまいます。

これがデンマークの教育なんですね。学校へ行くことよりも自分の体のために、ここに体操が出てくるんです。小学校の体操はラジオ体操のように自由運動です。ところがその上の若者に対する体操は意志運動です。気持ちの問題です。身体をきちんと伸ばすなら伸ばす。動けるだけの身体を作れ。

裏のことを言いましょうか、デンマークは軍隊を持たない国です。いつ何時でも、自分の家に置いてある鉄砲を持って飛んで行って、撃てるだけの身体は作っておかなければだめだという国民です。ですから身体を作ることはみんな得意です。そのうえに、「おい、君の射撃点数は何点だ。」二

言目には聞かれるのですね。私もデンマークに行って、「お前の点数は何点だ。」と言われた時に「0点だよ、日本には軍隊はないんだよ、兵隊もいないんだよ。」「自衛隊がいるじゃないか。」と言われましたけれどね。そう言われるくらい自分達の点数に自信を持っています。射撃の点数は何点と必ず言います。デンマークへちょっと行ったぐらいじゃ、なかなか言ってくれませんが。不思議な国だと思いました。

そして、早い方は18歳から20歳ぐらい、最高25歳ぐらいから上の方々はホルクハイスクールという、日本語でいえば国民高等学校に入ります。これは半年講習もあれば、数ヶ月講習もあれば、夏期講習であったり、冬期講習であったりしますが、自分のやりたいことをやるんです。卒業証書はありません。やったと認めるだけ、結果は自分で表しなさい。ですから、私は牛を飼いたい、畜産をやりたいとなったら畜産に何回でも入れるかわりに、卒業証書をくれないかわりに自分の腕を磨いて卒業する学校です。

この学校での教育の1つに体操があります。デンマークでは体を作る為に、いろんな方法が考えられてきました。デンマークでどんな体操の系列があったかというのは、みなさんのお手元に書いてある紙の中に入っていると思います。その中にとっても優れた方がいるんですね。今まで1、2、3、4と止めてやっていた体操を、あれじゃあだめだ、体を鍛えるためには、スムーズに音楽的に流したらどうかな、1-2-3-4と、いうわけですね。2の所に力が入ります。強いところへ力が入る自分のやれる範囲より、ちょっと先までやりましょう。曲がらない体なら、ちょっと先まで曲げよう。こういうことを考えた人がいるんです。これは生理学も考えています。物理学も考えてますし、いろんな学問を取り入れて体操を作り出した人にニルス・ブックという人がいます。たまたま先ほどの平林とデンマークで同級生だったんですね。

そのニルス・ブックというのがオレロップに体操学校を作ったんです。オレロップという地名とその体操学校ということで、「オレロップギムナスティックホイスコーレ」こういう名前と呼んでい

ます。そこへ平林は同級生でしたから、「お前の学校を見せろよ。」「おういいよ、こいよ。」と行ったんですね。「あの体操はいい、日本で広げたら素晴らしいものになる。」と感激して、自分も習ってきました。あとで、東京市に入ってから懸命になってやってます。終戦の直前まで、東京都庁のまんまん中で毎朝、体操が続けられました。体操はニルス・ブックと言う人が作った体操でした。その専門の事は斎藤先生に譲ることにしましょう。このような話をいろいろ聞いて帰ってきて、デンマークの話といっしょにして日本中吹聴してまわったんですね。

斎藤由理男とデンマーク体操の出会い

そしたらある会場で聞いた、この方（斎藤由理男先生）がどうしてもやりたい、そういうことで成城学園という所に小原國芳氏という人が自由教育という考え方でやっている学校がある。これは小野源蔵氏から聞いたらしいんですがね、それでこちらから成城学園という学校へ斎藤由理男先生は出かけて行きました。当時日本では、三橋喜久男さんとか、永井道明さん、こういう方々が欧米式の体操、三橋さんはデンマークへは行ってるんですけど、やっている時にいかなかったの、細かいとこまで見なかったんです。それで帰ってきて斎藤先生が成城学園へ訪ねて行くと、三橋さんにその園長の小原國芳という人は、「どうだろう、こういう若者来たんだけど。」「そりゃいいよ、君、1つデンマークに行ってもらってもいいじゃないか。」と、こんな話になっちゃうんですね。

玉川学園創立当時と斎藤由理男

ところが、その前に別の話ができました。成城学園は小原國芳はあきたらなくなりまして、もう1つ自分の学校を作っちゃうんです。それが玉川学園という学校です。同じ電車の線路の沿線に2つの学校があって、その片一方が成城学園、もう片一方が玉川学園です。その玉川学園ができたのが昭和4年の4月1日。4月5日に斎藤先生は成城学園の先生から玉川学園の先生に代わって行きます。なにしろ最初にやったことは、先生、笑うかもしれませんが、学校の中に桜の木を植え

たんです。学生達といっしょになりましたね、あっちこちに桜の木を植えて、植え終わった途端に、大きな池があるんですが、その脇に芝生がある。そこで相撲をとったというんです。そういう記録が残っています。うかがったら、お相撲が好きだったそうですね。

それから、斎藤先生は次の年、昭和5年ですが春先のまだ寒い頃、成城学園と玉川学園がいっしょになって、関山という所ですが、あそこにスキー学校に行くんです。今では当たり前のようにやっていますが、当時はスキー学校はあまりなかったんですが、学校を休みにして行ってるんですね。小原國芳も行ってます。1日前に行っただけに、1日目はうまかったそうです。ところが鹿児島生まれの小原國芳がそんなにスキーがうまいはずがないんです。その中でピカイチの方がいたんですね。斎藤先生です。秋田でスキーをやってるんですからね、これは当然ですよ。ただし昔のは、レルビが来た時に教えた当時の1本づえで、曲がる時には外傾姿勢。あのスキーをやったらしんですね。ただし、斎藤先生、何にも書いてないんですけどね。そこまでやったことは確からしいです。

ところが、ある日子供達が言いました。「小原先生、どうせスキーを習うなら、世界一の人に習おうよ。」ところが小原國芳さんはどう考えてか、「その人は誰？ どういう人？」「そう、オーストリーという所にいる人で、サント・アントン、それは山のなかだぞ、スイスの山のような高い所だぞ。」「そこにいるハネス・シュナイダーという人だよ。」その学校がここですね。(脇の写真パネルをさして) その学校からハネス・シュナイダーを日本でいうお金で相当な額を払って、来ていただきました。来ていただいて指導していただくつもりだったんですが、ロシアを1ヶ月かかって汽車で渡ってくる間に、パスポートで引っ掛かってしまって、1ヶ月近く遅れてくるんですね。そして、スキーを日本の主な所でやって、野沢温泉にそのスキーが残ってますけど、そういうスキーをあちらこちらでやりました。たしか秋田でもやったと思います。ついてきたのは斎藤先生。こういうことを自分の県にひっばってきた、その1人だったんですね。(脇の写真パネルをさして) 体操だけじゃ

ないんです。このスキーの紹介でも秋田では先覚者の1人になりそうなんです。

こういうことがあって、日本中にその当時は外傾姿勢だとか、とんでもない格好をして、こんなになって曲ってた。それがほんのちょっと膝を曲げただけで、スーっと曲ってしまうようなスキーを広めちゃうわけですね。

念願のデンマーク留学

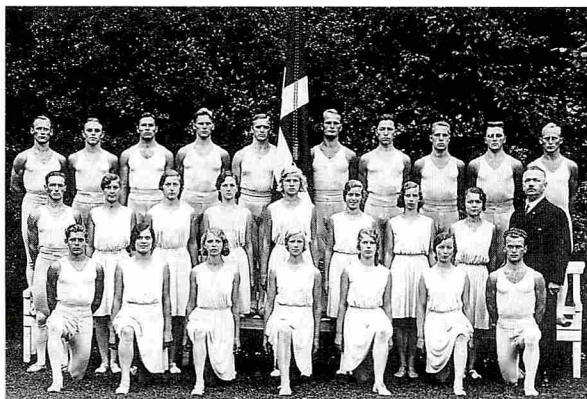
もう今の時代のスキーじゃあたり前のことですけど、そういうことをやっていかれた斎藤先生は次の年、昭和5年になりますと、念願であったデンマークへ留学することができました。素晴らしいこ



年報に掲載された
斎藤由理男の写真

とだと思います。斎藤先生の夢がそのまま実現されたんですから。そこでデンマークへ渡った学校へ入ってみますとですね、斎藤先生の体は柔らかい、あだ名は「ゴム」、とんでもなく弾んだらしいですね。「君ね、今度の休みには、スウェーデンに行って、スウェーデンの王立体操学校へ行てこいよ。リングという人もやってるよ。ナハテガールもやってるよ。君、あそこを忘れちゃいけないよ。」「いや、私、1つ、サントアントンまで行きたいんですが。」「おう、スキーね、いいだろう。」ニルス・ブックは大喜びで行かせてくれましたが、その時の行かせた小原國芳さんは自分でも矢もたてもたまらなくなって、ニルス・ブックに相談に行きました。「君、12人でいいから、連れて日本へ来て、体操をやらないか。体操を見せてくれないか。」これがニルス・ブックの気持ちの中に「行きましょう、ただし12名じゃ困るんです。26名じゃないと。」小原さん、困ったんですね。そんなお金ないよ。しかもシベリア鉄道で26名の費用だして、往復したら大変なことになる、と、考えなが

らも日本中連れて回って案内したら、きっと何かになるという夢に燃えて26名で押し通したところが、デンマークの王様が、「君、行くんなら、デンマークから費用をだそう、差額を出してあげるよ」と、そういうことでニルス・ブックの一行は日本へやってまいります。



来日したデンマーク体操チーム

ニルス・ブック一行の来日

約40日間、昭和6年の9月から10月にかけて各場所でやりました。東京でいろんな表敬訪問を済まして、まず福島県へ行きました。福島から夜行列車に乗って秋田へ。そうですね、斎藤先生の生れたところですからね。斎藤先生としても、是非とも呼ばないといられないわけですね。幸いなことに小原國芳さんの仲の良い方もおられました。そして、將軍野グランドというんですか、そちらで公演をすることになりました。お昼から小中学生が会場を埋め尽くしたと言われております。ところが、その日に雨になってしまうんですね。しかし、会場に来られた方は聞くと、秋田県だけじゃないんですね。東北地方全部から集まるだけじゃなくて、北海道からまで来てるんですね。それを聞いたニルス・ブックは「君、雨なんか問題じゃないよ、その遠くから来た人に申し訳ないじゃないか、やろう。」雨の中2時間やったんだそうです。まあ素晴らしいことをやってのけて、その後会場を移して、デンマークのタベというのをやってから、今度は新潟の方へ移って行きました。

こうやって九州まで、ぐるっとまわってから最後に、「ロシアの方を回って帰るのは、もうつらいよ。君、すまんが横浜からアメリカに渡って帰りたい。」そこでニルス・ブックの一行は船でアメリ

カに渡って行きました。なにしろ、8月に出たと思ったんですが帰ったのは12月の終わり頃だったそうです。

東洋分校のこと

日本では小原國芳さんが、「是非お願いしたいことがあるんだが、君の学校の分校をここに置いてくれないかい。実はこの体育館も君たちがここに来るために作ったんだ。このグランドもスタンドもそういうわけなんだけれども、1つお願いしたいんだが。」と言ったら、ニルス・ブックは喜んで、「アメリカに2つ作ったら喧嘩ばかりして困るんだよ。日本に1つ作る言うより、東洋に1つ、東洋分校を作ることにしたい。小原さん、校長になってくれるね。あ、なにしろ校長というより、君の所にはその1番いい先生がいるじゃないか。」斎藤由理男さんに主事、主事さんというとは色々お仕事されておりますけど、当時の主事は校長代理ですからね、校長代理、斎藤由理男氏というわけです。まあ、素晴らしい夢が斎藤先生に成就したわけですね。

斎藤先生が主事になって、日本全国に呼びかけて体操の講習会を始めました。年に3回くらいでしたがやってきた人の中に、体格のいい青年がおりました。聞いてみると海軍から来たのと、後に落下傘部隊の隊長さんになって、南方に降下しましたけれども、残念ながら兵隊さんが失敗されたことを元にされて、オランダの方の兵隊さんと事が大きくなってしまって、兵隊同士ですよ、隊長が全責任をとって、その方は戦犯になって処刑されてしまいました。これほどに体操に熱心な方もいたんです。

後に海軍体操となっていくのですが、昭和6年に来た時に体操を見て、これだ、講習に来て体操を変えなきゃいけない、海軍の体操は悪い体操が含まれている。体操をあれに変えたら、素晴らしい。こう考えて、海軍体操を作り出した人、その企画書から、何から揃ってます。海軍はなかなか見せてくれません。今は自衛隊ですけど、今、自衛隊に行くと、「さあ？分かりませんね、海軍のそこまでは。」と、言われちゃいましたけどね。私の手許にはあります。

もう1つあったんです。日本中で、できることなら、体操を学校に広めたかったんです。ところが、残念なことに先程出てきた永野さん、スウェーデン体操を中心とした学校体操の教範というか指導の計画書みたいなものを、文部省としては決めた次の年にきちゃったんですよ。先にきてればいいものをね。そのために文部省では決めたばかりのところで変えるわけにはいかん、斎藤さん、これは困るんだよ。斎藤先生には随分な圧力がかったみたいですね。

デンマーク体操のひろがり

ただし、斎藤先生の事ですから、あ、そうですか、分かりました、それじゃあ私は違う方にやりましょう。パッと切り替えちゃって何にしたかというと、「社会体操」、そちらの違う方に進める道をどんどん開いてまいりました。履歴書を見ていただくと、実にいろんなところに入ってます。昭和7年には、なにしろ国鉄ですね、当時の国鉄です。今のJRですね。こちらにこういう体操をやるというですよ。また後で効能のことは申し上げますけど、この体操の事を指導する指導案まで作って、国鉄に売り込んでしまった。そういうことで、国鉄にも広まって行きます。国鉄の指導者さん達もどんどん集まってきます。玉川学園の体育館で毎日、毎日体操が進められていきます。その中でデンマークから2人の指導者が来てくれました。男性はヒルデ・ブランド、女性はリッター・クローンという人で、この指導によって何しろ昭和10年までの間に10回以上の講習会を開いています。私が知っている範囲だけで、約二千人以上の人達の体操を指導しています。

OTD章について

こういうことをやると、日本中にその輪が広がっていきます。これが先程申しました、オレロップという学校の頭文字をとったO、それから玉川の頭文字をとったT、そして最後にDという言葉を使いまして、O、T、Dという記章を授けるようになったのです。今日、私がつけてきているつもりになっているバッチなんですが、そのバッチは上に展示してあります。今日はちょっとつけて

ません。お前は貰っているのかと言われますが、実際にもらっています。こういうことでO、T、Dと言うのですがDという言葉は社会奉仕者という意味です。地域の人達に自分のやったことを通じて、国民高等学校で習ったことを通じて、一般に還元するんだ、こういう考え方のDと言うデーリングス、フォアーと申します。今で言うとデーリングス、フォアーがアメリカに渡って、日本へもう一度再上陸してきた言葉が今はやってますね。ボランティア、ボランティアと言ってます。ボランティアなら知ってますよと言われるかもしれませんが、このボランティアの最初の言葉で言うと、デーリングス、フォアーとデンマークで言っている、そういう言葉だったんですね。これがイギリスへ渡って、イギリスの教会に入って、アーメンの方の教会ですよ、それがアメリカの教会へ入って、ボランティアと呼ばれて日本に入ってきて、今じゃ懸命になってボランティアでやりますか、まるでただでやりますということを言っているみたいですけど、日本では奉仕と言う言葉で昔からやってきました。この奉仕と言うことは社会奉仕者と言う言葉の頭文字のDと言う言葉で表わしています。ですから、あのバッチをつけていきますと、私が行った時もそうでしたが、船の上に乗っている人達から「お前、OD持っているじゃないか、体操やってるの？そう、がんばってる？」こういうことがあるくらいの資格なんです。もう凄い人数でてます。向こうで出てるだけじゃなくて、玉川学園でもでてますが、わたしはなんでですか67番目と言う番号を持てますけど、そういうことで日本へ広がっていったOTDというバッチをつけている人達は何しろ海軍でも、国鉄でも、凄い勢いで広がっていったんですね。

日本中に広がりを見せたデンマーク体操

みなさん知ってらっしゃる、ヤマサ醤油というのがありますね。あそこでもやってます。体操をやってるんですね。体を整えてから仕事にかろう。本の取り次ぎの東京堂では、体の疲れはその日に残さないで疲れを全部取ってから帰ろう、そういうことでちゃんと体操やってます。東京の三越デパートの屋上でもやってます。丸通という荷

物を運ぶ会社、そこでもやっていますね。名鉄でもやってらっしゃいます。実にいろんなところでやってるんですね。こういう風に日本中に広がっていった、斎藤先生の力で「産業体操」ができました。日本がだんだん戦争で負けてくると、資源を使って、何とかして戦うものを作らなきゃいけないし、その工場の働いている人達の体をちゃんと作らなきゃいけない。それを考えて使命に燃えてやられた斎藤先生は産業体操を作っていました。「日本の体操」というこんなに厚い本がありますが、そこにも産業体操・斎藤由理男と書いてあります。航空体操・斎藤由理男、海軍体操・斎藤由理男、国鉄体操・斎藤由理男。斎藤先生の名前が次から次へと出てくるんですね。東大にも広がっていきます。日本女子大にも広がっていきます。

あっちの学校、こっちの学校と広がっていった中に東大に広がっていくのを見て、黙っていられなくなったのは文部省です。学徒鍛練体操と称しまして、斎藤先生の指導でとうとう文部省は重い腰をあげたんです。終戦直前です。残念ながらね。

中にはその体操を見て、これはいいぞと、体のためにはとてもいい、ことに疲れを取るためには、整美体操としてもこんなにいい体操はない。と、言って始められたのは、ここの秋田の先覚者でもある舞踏家の石井漠先生でした。石井漠先生は玉川学園の職員でしたから、なんと斎藤先生の体操を見てるわけですね。僕も1つやろう。この舞踊体操というのをあの先生が作っています。それだけじゃ、おさまんなかったんですね。ラジオ体操第2番、今のテレビ体操じゃないですよ。ラジオ体操第二というのはあの（石井漠）先生の作ですね。あの先生が斎藤先生のやっているのを見てただけで第二体操を作ってしまいます。こうやって日本中に広がっていくんですけども、講習会を玉川学園で開きますと言っても、中の寮の広さからいって200人が限度なんです。それ以上は教室を解放しなければ寝泊まりできないんです。しょうがないもんですから、そこで切ってたんですけども、デンマークから来ていた二人の体操の先生が辞めるのを機に、昭和11年の事でした、ちょっと考え方を変えました。

公演旅行

それまで玉川学園が色々やってきたことに、先ほど言いました歌もありました。これはね、岡本敏明という先生なんですけど、合唱がとても得意で、日本中に合唱を広めた人です。その人が合唱指導をして合唱コンクールで1位になったんですね。まあ、自慢です。体操も凄くなってきました。「ひとつ小原先生じっとしていないで、僕ら日本中回って歩きますよ。体操と歌と劇もやりながら、どうですか？どっか行ってやりませんか？」と言った時に、斎藤先生は「デンマークでとつくの昔にそういうことをやっているよ、ひとつ日本でもやってみよう。」ところが困ったことが1つあるんです。当時の考え方では、男子と女子は席を同じくしませんでした。一緒に泊まって、年頃の中学生から高校生が、今の高校生ぐらいの専門部の学生と一緒に歩くななんてとんでもないと言われてる時代でした。ところがこの頃玉川学園は男女共学だったんです。そこで、「これはいい、1つ、日本の体操だけに、一緒に行ってそれをデモンストレーションしないか？」そういうことを決めたんですね。

そこで、みんなで計画してくれないか。その中の計画者の1人に斎藤由理男先生がおられました。いいでしょう、ひとつやってみましょう。「君、どこから行く？」「この前ニルス・ブックが来た時に大歓迎を受けた、あそこがいいな。」自分の郷里であれば、秋田県にまず来たくったんですね。小原國芳さんは俺の郷里だから鹿児島県に行こうと言ったらしいんですが、2回目になりました。秋田にやって来ることになりました。ところが、その年が昭和11年、みなさんご存知の通り、二二六事件がおきました。来るはずの3月、残念ながら二二六事件で行くことができませんでした。そうすると、一番の主役だった人がなんと卒業しちゃうんですね。困っちゃったんですね。どうしよう。いけるのは4月だよ。そうしたら卒業した諸君がいいじゃないですか、卒業しても行きますよ。とうとうやってくることになりました。そして、こちらの秋田県にやってきたんです。

「どじょっこふなっこ」の誕生



金足西小学校「どじょっこふなっこ」の碑の前で

そのやってきた時の話をちょっとだけ申し上げたいと思うんですが。ごめんなさい、ちょっと、4年ばかり前に倒れたもんですから、息が続かないで、ちょっと休憩させて下さい。休憩と言っても、ちょっと音を流します。みなさんご存知の曲、この曲でしたら知らないと言ったら、怒られちゃいますね。(どじょっこふなっこのオルゴールの曲) 金足西小学校で演奏会と体操をやりました。終わってから、学校では職員室と隣の宿直室ですか、そこで、歓迎会を開いて下さったそうですね。その席上に遅れてきた先生がおられたそうです。中道先生と言う先生だったそうです。その先生がいるところがなくて、しょうがなくて、小さくなっていたんですけど、座った状態ですから、背が高くなるんですね、そこで交代、交代で玉川学園と両方で歌等をやってきて、昔からの秋田音頭やら色々でたのでしょうか。先生が指名されてしまって、当たった中道先生はもう困っちゃって、どうしようもなかった所を後ろから他の先生が懸命になってネジをまいたそうです。

その時の先生は、汗がジャージャー流れたとこう言うておられますが、一つ誰も知らない歌を歌ってやろうと、前にどこかで聞いた「春になればー。」(詩吟調)とやったんですね。その歌を聞いた、そこに来ていた玉川の音楽の先生は、この歌は凄いというわけです。早速書き留めて、もう1回頼むんです、もう1回。全文を懸命になって書いて、その場で曲を作ったんですね。この先生がみなさんご存知のこの曲のこの方の御弟子さんなんです。(浜辺のうたのオルゴール) この曲はみなさん、よくご存知ですよ。今でいう国立音楽大

学の先生をしておられる、その御弟子さん。なにしろ成田為三先生の曲の中には土地の民謡を合唱曲に作るという凄いことをやってます。

当時はね、民謡と言ったら宴席が中心でしょう。飲んだ時には出てきますね。普段出て来る曲ではないんですけれども、佐渡おけさや秋田おばこにしても、荘内おばこにしても、みんな成田先生によって合唱曲になっている。成田先生のそういう気持ちを受け継いでいる岡本敏明先生にしては、この歌詞を聞いて、これに1つの素晴らしい曲を考えたのが、あのみなさんのご存知の♪は一筋になれば♪という「どじょっこふなっこの歌」になるわけです。最後の部分「夜が明けたと思うべな」の所にずっと高い音が続いていますが、ところが、最初に作られた時はですね、アルトとテナーがテーマになってるんです。ですが、このままの楽譜だとソプラノばかり歌っちゃうんですよ。ですから岡本先生が最初に作られた当時のままに伝わっているわけじゃないんです。ちょっと私は残念に思ってます。先ほど流しましたオルゴールのあの音は、不思議なことにオルゴールにありませんでしたので、穴をあけて流すオルゴールです、私が勝手に穴をあけて、どじょっこの曲にしてみなさんにお聞かせしたのが、最初でございます。手でまわしているの、これ以上早く回らないのは、勘弁して下さい。

こんな風にして、どじょっこふなっこの歌は、ここで生まれて、次の会場ではもう演奏してるんですね。それが終戦後にですね、歌声運動になり、どんどん日本中に広まって行きました。秋田民謡と書いてあればいいんですけど、作曲者不明にまでなっちゃって、いろんなところにいきました。でも今は、あの学校に石碑ができて、あそこに楽譜が入っています。東京の隣の川崎の岡本先生のお墓にもあの曲が入った石碑があります。こうなると、どじょっこふなっこも何か、御縁があるんですか。斎藤先生は体操を広めようと思って、秋田に来たんです。これは副産物なんですよ。そういうと失礼なんです、斎藤先生が生んだんですよ、気持ちを込めてね。こういうこともあったんだと覚えておいて下さい。体操だけのことでなくて、斎藤先生って凄いことを広めていった、そ

ういうふうに覚えておいていただきたいと思って、なんか変なことを企んできました。勘弁して下さい。

斎藤由理男の体操論

休憩はこんな変な形で取らせていただきました。今度は斎藤先生の体操の方に入っていこうと思います。みなさんのお手元に今日のお話のレジュメがございますが、斎藤先生の年表が書いてあります。個人的なことで勝手に年譜なんて書くなど叱られるかもしれませんが、デンマークの教育で目標としていることが、次の斎藤先生の経歴の後に載ってます。学習の目的は試験のためにあるんじゃないんだ、自分のためにあるんだよと、これがデンマークの教育の大きな方針です。極端な言い方をすれば、話なんか聞かなくなっていくんだよ、意味が分かってくればいいんだよ、自分のものにしてくればいいんだよ。これがデンマークの教育ですから、試験がない代わりに卒業証書はありません。これが国民高等学校のやり方です。うらやましいですね。

自分が納得して出来上がるまでやらなければならない。そして、これを使って今度は自分がみなさんに奉仕できるように。こういう考え方ですから、もし日本でそういう教育があったとしたら、素晴らしいものになると思いますが、日本ではこういうやり方をした時に、果たして「うん」と言う人がいるでしょうか？試験もない、卒業証書もないんだってよ、がっかりと言われちゃうかもしれませんね。そうかと思うと、教科書はあります。自分で調べなければなりません。日本では今、これをマネし始めました。これまでこういうことは、こうと強引に押し付ける教育をやってきましたが、1つみなさん考えて、これだと思ったらそれ以上に、自分から進んで調べてやってみませんかと言う目標が、今の生涯学習というのの目標ですね。これがもうデンマークでは百何十年も前からやってるんですね。うらやましいですね。それから国民色豊かな色彩や歴史や言葉を通して伝えるべきであって、口伝で伝えるべきであって、機械で伝えるべきじゃないという考え方が強いんです。ですから、デンマークへいくと、ビデオを流して、

どうぞご覧下さいという授業はやりません。やはりむこうの授業らしく、デンマーク語ですべてを語り尽くすという感じで話をされます。私などいっても、ちんぷんかんぷんです。でも、分かるように教えて下さった先生もありました。

学校を通じて自分を磨くことが大きな目標なんです。それを徹底してやるんですから。こうして考える基礎を作るんです。こういった国柄、そして考える人を作る、学校というのはこういうためにあるんだ。学校へ行ったら試験をして上級学校に受ければそれでいいんだという考えじゃないんだということですね。こういったことをしながら、歴史的な研究や、精神的な修養を積んでいくのが、デンマークの国民高等学校の体操の学校の目標だという風にして教育されています。ところが、今まで申し上げたのには体操は出てきません。それでは、お前さんは、何のために体操をやったんだと言われるかもしれません。斎藤先生の残した言葉でこれからちょっと伝えたいと思います。

国民体操として、日本中に広げようとしてましてね、海軍を中心として、それから陸軍も、先ほど出てきた小野源藏氏なども一緒になって、国民体育というのをどうすればいいかと考えた当時がございます。そして対談をやってます。そのなかで、いいたい放題の事を斎藤先生はいつてます。海軍に対しても、徹底的な言い方をしていますね。そして、海軍はこうあるべきだ、嘘だと思うならやってみろといって、そのさっき申しました落下傘部隊の隊長さんを中心として、海軍は海軍体操というのを始めます。

その目標を申しますと、第一番目は、整った身体。きちっとして素直な身体ですね。競技をやりますと、どうしても片一方の手だけが強くなったり、片一方だけが太くなったりして、いろんな形が出てきますが、身体というのは、整った身体になっていないと身体が曲ると脊髄が曲ってきて、押さえられたところによってその臓器が悪くなる。だんだんと動きが悪くなる。ちゃんとまっすぐな良い身体にしておかないとダメだ。私もそういうことに努力をしていますが、なかなか難しい。だんだんと腰が曲ってきて、おまけにぎっくり腰などをやっていますので実行は難しいものですが、

そういうことが第一番目にあります。

第二番目は強い身体。さっきの射撃ではないんですけど、どういう時にも耐えられる身体を作る。先般デンマークのチームを案内した時でした。熊本の体育館に入った途端にトラックがやってきて、マットなどを運び込んでいたんです。そして体操の連中はすでに用意されてると思っていましたから、みんな着替えてる最中ですね。体育館の入り口に着いたトラックからマットをおろし始めました。悪いことに私、出ていっちゃったんですね。そのマットを背中にしょったんですけれど、参りましたね。100kgあるんですね。体育館の中まで、とうとう担いでいったら、デンマークの連中が拍手するんですよ。足に合せて拍手する、どうにも止めるわけにはいなくなって、あんなに辛かったことはなかったんですが、あのときにやってよかったと思いました。みなさん、やって下さいと言わないで済んだ。こういうこともありましたが、やっぱり身体は鍛えておかないとダメだと、その時、痛切に感じました。こういうことがある二番目です。

三番目はとても、器用な身体。どういう時にも、とっさに動ける身体にしなければ、これが大切なんですね。それから四番目は、疲労の回復をよく考えなければいけないよということ。

五番目には病気になるように身体はよく鍛えておきなさいということ。そして最後にデンマークの中心にして言っていることは、美しい身体といっています。痩せろとは誰もいっていません。この頃は、異常なまでに細い若者が多すぎますね。まるで子供が木材のように痩せて、あれで子供が産めるのかしらというくらい痩せて、それでもまだ痩せたいというのですがね。ついている筋肉がないような体で、後々国がしょっていけるんでしょうか。そういうことを考えると、きちっとした美しい身体を作り上げるということは、大切なことの1つではないかと私は考えています。だから娘には痩せろとは申しません。太ってもいいから、きちっと整った身体でいろと、筋肉だって小さすぎる身体であってはならないといってますけど、なかなかわかってはくれないんですよ。もう今の若い者は分かりません。でも、こういう考え方

を考えると、なにしろ固くなっちゃうということ。凝固ですね。固くなっちゃったなということ、力がなくなって脱力したということ。そうかと思うとなんかやろうと思っても、不器用でなんとも動けない。こういう3つの要素だけは整えて克服しておかなければいけないということになりました。

これはまず、第一の関節が、背骨が、スムーズに動けるようになっていて、そして筋肉がしっかりしていなければなりません。それから運動機能がしっかりしていなければいけないんですが、デンマーク体操では言い方を変えております。まず、柔軟な身体、柔らかいということですね。次に強壮な身体、強い身体。もう1つは何にでもすぐ動ける、巧緻的な身体。この3つを三原則にしています。斎藤先生、そうですね。確か、先生そう言いましたよね。(斎藤由理男の写真パネルに語りかけるような仕草で) 先生の講習会を受けにいった時にもそう申されました。そして、斎藤先生はその中で、普段やっている体育というのは、衣食住が大切なよ。身体が積極的に動けるようにしないとダメなのよ。体育というのはね、いろんな種類がありますよ。遊ぶこと、遊技というのだって体育なのよ。競技も体育ではあるけど、逆にいうと壊れることもあるよ。武道だって、体を鍛えるための1つの体育なのよ。舞踊だって体育の1つですよ。そして教練、戦争中でしたから、教練も体育の1つになってました。しかし、好むと好まざるとに関わらずやらされました。次に体操。これだけは根本的にやっておかねばならない体育だよ。忘れちゃダメだよ。嫌でも、おうでもやりなさいよ。そのことによって、いいことだったたくさんあるんだよ。こういう話を産業体育講習会の席上でも、先生の亡くなられる直前の昭和18年にもやっておられます。

津軽海峡で無念の客死

ところが、斎藤先生はご存知の通り、先ほどお話があった日、黙祷を捧げましたが、上の展示でもありましたけれども、北海道と本州との交通とを絶対的に遮断しようとして、アメリカ軍は航空母艦でやってきて、艦載機を編隊で、津軽海峡に

いた十三隻の連絡船を片っ端から沈めました。その1つに先生は乗っていたんです。その直前に先生は自分のお子さんと奥さんをつれて郷里に帰ってます。子供を疎開させてね。そして、札幌の国鉄鉄道管理局でやる体操の指導のために船に乗ったんです。

3人の女のお弟子さん、その方々と船に乗って、懸命になって原稿を書いていたそうです。本を読んでは、書き、を繰り返したり、ノートの整理をしたりしていたそうですが、機銃掃射に対しても、たった1丁の機関銃では編隊でやって来る飛行機に太刀打ちできませんよね。大きな船ですから爆弾だってあたりますよ。しかも鉄板が薄いときているのですから、その船にボンと爆弾を落とされたら、煙をふいて動けなくなってその連絡船は、沈んでしまったそうです。そのお弟子さん達は船が傾いてどうにもならなくなって止まらなくなって、そのまま海へ落ちてしまっただけで板切れにつかまりながらむこうの方に人影がいるので「斎藤先生ー。」と呼んだそうです。これ、呼んだのは石川さんという方ですけど、日本女子大で先生をされていた方ですが、本人が自分でいってますからね、呼んだというのは本当でしょう。そしたら、「おーい。」という返事が2回聞こえたそうです。それが最後のお別れだったといえます。先生は帰らぬ人になってしまいました。もう1人のお弟子さんもここで亡くなっています。二人いたうちの1人は、本州の方に流れ着いて、助けられています。もう1人の方は海上警備隊が回っていた時、偶然救い上げられたのでした。そこで、先生は帰ってこない人になってしまったんですが、水泳はあまりお得意な方でなかったそうでした。

あの先生の号令はもう聞かれません。先生の号令はこんな感じでしたね。なにしろ、デンマーク語や日本語で「フリースィング」「直角振」「垂直振」など号令をつけながら竹の棒を持ってきて、ボン、ボン、ボン、ボンとテンポを取り、ある時はタンバリンを持ってきて、力を入れる時にパーンとたたく時もありました。口笛をふくように、ピッ、ピッ、ピッとこれだけで号令を済ませちゃうんですね。一、二、三、四なんて言わない。アクセントの時に「ソレ」なんて、こういうことを

やった先生の声はもう二度と聞くことができません。まあ、そういうような関係があって、話せばまだいくつも出てきてしまいます。1つ1つが出てきますが、ある時、体操のグループの方々が集まる、OD会というのがありました。このOD会というのは、OD章を持っている方々が集まる会ですね。会場にはいろんな方が来ました。国鉄の方は制服で昔からの帽子をかぶってやってくる。海軍の方なんか、カッコいいですね。号令をかけて、カッカッと歩いて来るんですね。前に進めとね。こういう方々がみんな集まってやっている体操の会が昭和18年頃に続けられていました。OD会と呼ばれていてその会が私には忘れられません。

それに全然、関係のない私がいつも、いつも行っていたのです。その理由は先ほどの平林の話がありましたが、その平林の娘、私の母親ですが、体操をやっていたんです。母は玉川学園で体操を習ったんですが、ある年、赤ちゃんを産みましてね、盲腸炎になった。その菌が足にいきましてね、膝の筋肉をとっちゃったんですよ。もう一生、松葉づえじゃないと歩けませんといわれたのを、どうしても歩かなければならなくなって、息子がわがままもんでしたから、その私の月謝を払うために、ミシンを踏まなきゃならなかったのです。痛いのを我慢して踏んでいるうちに、どうにか動くことを知って、この体操をそのままやりはじめたのです。そうしたらおかしいものですね、お医者さんがダメだよというものが、このデンマーク体操をやった為に、誰にもそのような足だと分らない位に動くようになってしまいました。そうこうしているうちに、2年前に亡くなりましたけれども、88歳まで国立競技場で毎週婦人体操に通ってました。しかし、誰もその怪我をした足に気付く人はいなかったそうです。こんなにハビリにも効くんですよ。動かそうとすれば、動かなかった筋肉ですら、動いてしまう体操なんですね。素晴らしいことだと思います。

デンマーク体操って何？体操だけ？じゃなくて、こんなことにも役立つ体操なんだよと、日本中に自分では教えないで先生は逝ってしまったんです。

勤労者体操指導者講習会講義録から

ここに斎藤先生の言った言葉があります。斎藤先生の残した言葉をここに10いくつ申し上げて、終わりにしようと思うんですけど。(先生の亡くなる直前の勤労者体操講習会の速記録より) 斎藤先生はまず、この体操をやるために産業体操として教える時には、先生としてはこれほどのことがなければいけないよと言った言葉が11ありますが、このレジュメに入れるべきだったのですがこれが出てきたのが一昨日だったので、申し訳ありません。みなさんにお配りすれば良かった。

1つ目 まず、信念を持ってやりなさい。これが大事なんですね。2つ目 見識を持ってやりなさい。信念に続いて見識が大切ですと。3つ目

生命と自分の使命は一致しなければならない。これを体操の講義として言っておられますが教育学の奥義を言ってらっしゃる気がします。4番目 気概を持ってやりなさい。人が良くて、且つ心臓が強くてほしい。5番目 愛情を持ってやりなさい。6番目 情熱を持ってやりなさい。確かに情熱を持ってやることは必要ですね。7番目 感謝する気持ちを全てに持って持ってやりなさい。8番目 徳行を持ってやりなさい。まるで、中国の徳の高い孔子か孟子が申すようなことですね。9番目 敬虔の念、これを持ってやりなさい。人を妬んではいけない。10番目 自分の健康を大事にしてください。11番目 最後に、技術を磨くことを忘れないでやりなさい。

先生、そう言ったんですよね？(斎藤由理男の写真パネルに向かって) これを書いてメモしている人がいました。そのメモが出てきたんです。実際に話しているんです。昭和18年の7月1日から8日までの間、斎藤先生は毎晩講義しまして、最後にこの言葉を十一言いました。斎藤先生はこの言葉を最後に講演したのです。まるで、お釈迦様か何かが言うような言葉が体操を通じて出てくるんですね。

こういう先生だったんです。その種子を日本中に蒔いたままで、先生は逝っちゃったんです。私は残念だと思います。

その後のデンマーク体操

戦後になって、もう56年たちました。56年たった今日、じゃあ今、その体操はどうしてますかとみなさん思いでしょうが、どこでやってるの？と。朝6時半頃、駅の裏へ行ってみて下さい。JRがありますね。多分、あそこでやっているはずです。秋田のJRでも線路の色々やっておられる方々は仕事を始める最初にみなさんで体操いたしましょうと号令がかかって体操をやっています。職場の始まる時にもJR体操としてやって、仕事が終わる時というともう一回血行を良くして疲れをためないで帰りましょう、と言って体操をして帰っていかれる。東京のJR新宿駅では必ず6時半、体操をしています。東京では昨日、指導員の方々の指導計画書というのが手に入りました。指導書がちゃんとできて続けられているのです。その指導書をもらってきました。先生、その後の夢がこうなっているんだよ、と私はいいたかったです。それを聞いてくれる先生はいないんです。でも、こうやって続けられているものは、自衛隊では自衛隊の体操として続けられています。今のラジオ体操の中にもたくさん組み込まれています。体をただ単に自由に動かすラジオ体操じゃなくて、その上に自分の意志で自分を作り上げる体操というもの、これを植えつけていって下さった方が、斎藤先生であり、この気持ちを育て上げていった土地が秋田県なんです。それだけは覚えておいて下さい。



岩渕文人氏を囲む斎藤由理男ゆかりの人々